

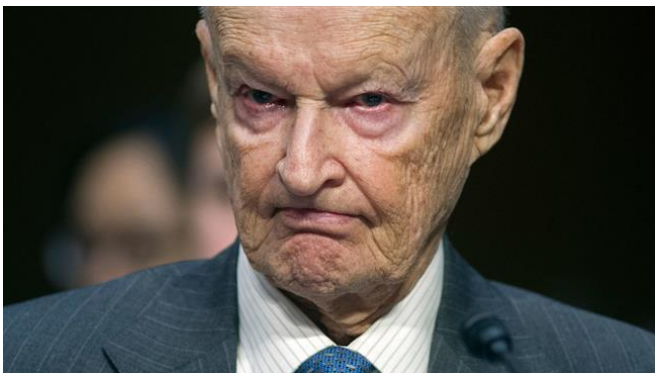
# ブレジンスキーの悪夢：ロシア、中国、および現実の戦争 の見通し

【訳者注】ワシントンの、一貫した汚い策謀や犯罪を象徴する老人が今、おそらく一生を終えようとしている。ワシントンも、彼と運命をともにするかのよう、終末の雰囲気は濃くなっている。絶大な権力が、すべてマイナス行動にしか使われず、ブレジンスキーのような人々が、もし人生の終りに、自分の行動の意味を問うことなく、たとえ失敗はあったとしても動機は正しかったと信じたまま、死んでいくのだとしたら、それはどういう人たちなのだろうか？ 我々とは違った別次元の人間であろう。にもかかわらず、我々は彼らを許容し、彼らに従い、彼らに支配されて生きている。我々は彼らとの関係を断ち、覚醒することによって、彼らの侵入できない世界を切り開かないかぎり、本当の未来は見えてこないだろう。

ちなみに、読者コメントにこういうのがある——「ズビグネフ・ブレジンスキー、ヘンリー・キシンジャー、ヒラリー・クリントン、こうした人々は死海の東岸へ送ってやろうではないか。彼らは塩になって、聖書の予言が実現するだろう。」

Umberto Pascoli

July 21, 2016, Information Clearing House



Zbigniew Brzezinski

元国家安全保障担当大統領補佐官

ポーランド出身ユダヤ人

明らかに客観的に老いさらばえたズビグネフ・ブレジンスキーが、彼の最後の公的な大言壮語（「地球の再整列のために」“Toward a Global Realignment”）の中で、老いた犬は新しい芸を学ぶことができないことを、見事に示している。

明らかに、自分のエゴのために、この老いぼれた戦争犯罪人は、アメリカのエリートたちの

戦略家としての、破産した役割を降りることができないでいる。彼はいまだに、ウォール街の巨大なサメどもに、差し迫った破局と彼が呼ぶものから、彼らを救うことができると思わせたがっている。アメリカの対外政策が、自分のキチガイじみた計画（特に、彼の秘蔵っ子バラク・オバマが選ばれて以来の）に基づいていることを忘れて、ブレジンスキーは、彼の主人たちに、アメリカはもうすぐ世界支配の地位を失うかもしれない、そして/または、もし自分たちが“ライバル”のロシアや中国と戦争をしたら、軍事的にこっぴどい敗北を食う可能性さえあると言っている。

どうしたらよいのか？ 彼の計画は？ 彼の唯一の解決法は、中国をロシアから引き離し、この2つの“ライバル”の一方を、ワシントンと組むように説得して、他方を敵にすることである。あまりにも現実離れして哀れなほどだ——控えめに言っても。

ロシアが、経済的、財政的、軍事的、また心理的戦争の、どんな手を使っても頑として降伏を拒否していることに言及して、ブレジンスキーは、“ライバル”が“新しい兵器システム”を使って、アメリカに対して、納得の上の心中か、支配権の喪失かの選択を、強要してくる可能性があると言っている。

したがって「ある国家が、アメリカを軍事的に劣勢に立たせる能力を、急激に獲得することは、アメリカの地球的役割の終わりを意味するだろう。」

ブレジンスキーは、これは「おそらく地球的混乱」を意味するだろうと警告する。だからこそアメリカは、直ちに、ロシアと中国の引き離しを図らねばならない。そしてこの2国の一方をパートナーにしなければならない。しかし、（苦しいジレンマで）どちら敵で、どちらがパートナーであるべきか？ ブレジンスキーは、アメリカのエリートは、「最も予言できないが、最も出し抜きやすそうなライバルを、封じ込めることだ」と説明する。とすると誰か？「現在のところ、最も出し抜きやすいのはロシアである。」ではプーチンのロシアを敵に回して、中国と同盟を結ぶ？ まあそう急くな、とこの疑い深い蛇は言う。実は、「長い目で見れば、[最も出し抜きやすいのは] 中国だろう。」フーム。

多分、このウォール街のサメどもの、犯罪的に無能の教師は、2つのライバルを引き離し、最初に手を挙げた方に“パートナーシップ”を提供するつもりだろう。その場合には、我々は底なしの騙し、恥ずかしくなるような無能の見世物を見ることになる！

このレプティリアン戦略家の、最後のおそまつな力作には、彼のヨーロッパとヨーロッパ人についての評価も含まれている。それは、彼が考えているが、公然とは言いたがらないことである。地球的にどうするのがよいかは、明らかに躊躇して言わないが、ブレジンスキーは、

ヨーロッパ人については安心している——彼らは完全に牙を抜かれて、支配下にあり、アングロ・アメリカンの支配に対して、現実的にも潜在的にも全く危険がない。彼らは、彼らの主権や基本的な経済的利益に不利な、あらゆる命令に従い続けるだろう。彼らは自虐的に NATO の収容所を強化するだろう。そしてヨーロッパは、南からのよく組織された移民によって、前進的に不可逆的に、弱体化し、無価値な混沌の地になるだろう。

アメリカは一石二鳥を得るために、“アラブの春”や内乱が継続し、エスカレートするように図るべきである——

1) 表裏両面の手段を用いて、中東と北アフリカ諸国の、不安定化スパイラルを可能にすること。

2) 表裏両面の手段を用いて、これら不安定化された諸国からの、ますます多くのヨーロッパ移民の流入を図ること。

ブレジンスキーは、これら自棄的な群衆（彼の政策の意図した産物）からの、ヨーロッパに対する暴力を、正当化し扇動する。そして、まさに偽善の極限を用いて、「現在の、植民地主義後のムスリムたちの間の、暴力的な、政治的な目覚めは、たいていはヨーロッパ列強による、しばしば残忍だった抑圧への、時期遅れの反応である…」と説明している。

したがって今、ヨーロッパ人は、彼らの植民地主義の罪のために、報復を受けなければならないのだ、とブレジンスキーは強調する。

ヨーロッパのいかなる大きな政府も、党も、組織も、また中東や北アフリカも、この冷血的な策謀による二重の攻撃に対し、反応もせず、弾劾の声も上げていないのは、信じられないことである。この“地球的な政治的目覚め”という表現は、（ロシアと全ユーラシアを孤立させ、不安定化させるための“大いなるチェスボード”という表現と同じく）まさに、ズビグネフ・ブレジンスキーの発明した言葉である。ニューヨーク・タイムズの 2008 年 12 月 16 日版に出た、選挙されたばかりの、彼の愛弟子バラク・オバマのための、公的な前進命令としての Global Political Awakening はここで見られる。

<http://www.nytimes.com/2008/12/16/opinion/16iht-YEbrzezinski.1.18730411.html>

ブレジンスキーはまた、2008 年には、犯罪的に頭のおかしい、チェイニー-ブッシュ政権によって深刻に侵食されていた、ウォール街のハゲタカどもの権力の、生き残りを確保する、魔法のクスリを見つけようと一生懸命になっていた。この者たちは、ロシアとの経済的・政治的連携を活発に追及するヨーロッパ（特にフランス、ドイツ、イタリア）からの増大する

反乱に直面していた。

この論文でブレジンスキーは、オバマは実は、彼の柔順な“ファウストの小人”だったと、はっきり自慢していた。彼はまた、アングロ・アメリカンのエリートたちに、どうしたら支配権を保てるかの魔法のレシピを与えようとしていた。「ある新しい大統領が、世界の諸問題に効果的なリーダーシップを発揮できるアメリカの自信が、広く危機に陥っている中で、職に就こうとしている。それは厳しい考えだが、しかし事実である。…今から現れてくる問題は、気象、健康、社会的不平等のような諸問題からなっており、それらの問題がますます論争を引き起こすのは、私が“地球的な政治的目覚め”と呼ぶもののコンテキストの中で、それが浮上してきたからである。」

彼が「地球的な政治的目覚め」と呼んだものは、1978 - 79年の、彼の主たる汚い策略——“ロシアにベトナムの泥沼を味わわせてやる”ための、アフガニスタンにおけるアルカーイダの創造——のアップデート版以外の何ものでもなかった。

[http://dgibbs.faculty.arizona.edu/brzezinski\\_interview](http://dgibbs.faculty.arizona.edu/brzezinski_interview)

社会的な騒乱——“色の革命”とか“アラブの春”とかいろんな名で呼ばれる——を創造し操作することは、この同じ犯罪的な汚い策略を、仕上げることだった（クーデタを起こし、公的に関わったことの代価を、いかに支払わずに済ますか）。ブレジンスキーのあまりにも過大評価された地政学的能力は、テロリズム、組織犯罪、メディア・キャンペーン、プロパガンダを、創造し操作することにほとんど限定されていた——そのすべてが犯罪行動を晦まし、隠ぺいするためで、それがなければ、公然たる戦争行為になっていた。

しかし今、この朽ちゆく蛇は、彼の長い戦争犯罪のリストだけでなく、彼の無力をも隠すことができなくなっている。